

絵本の言葉と読者との相対性に関する研究

船 越 晴 美

は じ め に

本来絵本読者としての子どもは、与えられた作品を客体としてそのままに受容するのではない。むしろ作品の世界の中にとけこみ、自らの世界と同一化し共感するものである。その意味では子ども読者は絵本作者との間にかなり複雑な相互交流の世界を展開するものといえよう。

たとえ幼児の精神発達を配慮して製作されたとされる絵本であっても、それに対する反応は一樣ではなく、さまざまな様相を呈する。それぞれの語・文にそれぞれの子どもの読者たちが相対的な関係において、それぞれに心の中にユニークな表象の世界を持つことが多い。

本研究は、言葉と幼児との相対的關係において出現した表象を算出し、それらの資料に基づいて報告しようとするものであり絵本論そのものを展開しようとするものではない。

すなわち、幼児の直接経験の基盤を持たないと思われる言葉や文を、ある月刊絵本の中から対象として選び出した時、幼児がどのように理解するか、どのように概念化するか等を解明しようとしたものである。

従って絵本を構成している言葉・文についての側面から、更にその細部についての実証的検討であり、今後の絵本と読者との相対的關係を明らかにしようとする絵本研究の試みである。

方 法

1. 調査対象 S幼稚園4歳児40名

2. 調査場所 S幼稚園の保育室

3. 調査方法

1) 月刊絵本『こどものとも』福音館昭和49年4月～昭和50年3月までの12冊の内、9冊を調査資料として選ぶ。

2) ㊦ 事前に40名の子どもたちと調査対象の絵本を見て子どもの反応を観察する。

㊦ この場合、『幼児言語の発達』大久保愛、『幼児の言語発達』村田孝次の文献資料を基準にして、予め絵本の中において幼児の生活の範囲を越えているであろう言葉を予

想し、抽出して調査語とした。

9月, 2月, 3月号の内容は問題なくすべて理解できたので, 調査対象の絵本として選ばなかった。

- 3) 子どもを個別に呼んで, もう一度絵本をはじめから見て疑問のある言葉について質問する。教示の方法は, 例えば「おそろおそろでてくるってどういうこと?」と質問し, 口頭での回答を生のまま記録する。

- 4) 調査結果の整理並びに考察

- ㊦ 調査結果を整理して月別に表示し, それぞれに考察する。この場合の表のまとめ方は月別にして調査語を分類したのである。

「わからない」と回答した反応分類については再度質問したり試みたりはせず, 子どもが首を振ったりしてわからないと言語表現したままをこの項目に入れる。この問題については, 子どもの内面的な研究分野からは疑問点が残るが, 今回はどのように語彙を変化させたら理解できたかについて考察し, また絵と文のからみあいについての考察も補足する。

- ㊧ 次に調査語の反応語についての分類項目をつくり, その中に分類して月別に表示する。分類項目は次の6項目である。

1. かなり関連している。
2. 音による想像。
3. 言語の意味を独立させて想像。
4. 絵の中から関連なく選ぶ。
5. 関連性がない。
6. わからない。

反応語を分類項目別に考察していくことは紙数の都合上割愛し次回にとりあげる研究課題にしたい。

月刊絵本の反応語についての考察 (資料1参照)

資料1の調査語における幼児の反応語について考察していきたい。

〔表1の考察〕

この作品は絵と文が同じ作者によってつくられた楽しい内容である。しかし, その中に子ども離れた語彙の少し目立つことが気になった。

本作品 p. 15 目にみられる, 「おそろおそろでてくる」の意味を理解できている幼児は0%であった。おそろおそろのはじめの二字によって, <おそろいのくつ, おそくでてくる>という全然ちがった連想をしている幼児もいる。おその二字に続いて, おそろおそろということばの二度のくりかえしの連想から, おそろいのとし, 出てくるをくつと展開して<おそろいのくつ>と変化したものと推察されるのである。さらにイメージが発展して<家出すること>にまで展開した幼児もいた。

＜ゲーム＞としているのは、おそるがオセロゲームへイメージが転化したものである。

＜かみなり，雲＞は，おそるおそるという意味をこわい，おそろしいという感覚では捉えても，それを他の具体的な身近な生活経験のイメージに置きかえて表現したものと考えられる。

その他に絵の表現の中に草のところからねずみたちが出てくるところを見て，おそるおそるを＜はっぱ＞という名詞として理解した幼児やストーリーから離れた解釈をした幼児が多かった。

例えば「おそるおそる」を「こわそうに，そっと，こわごわ」にすると全児理解できたのである。

〔せっけいず〕は身近な生活経験の中でかなり関連して理解できている幼児がいた。しかし27.5%の幼児のみなので，何らかの方法で理解させる努力が必要である。クラスの35%の幼児が意味を理解できず無回答であった。あと27.5%の幼児がわかりかけているが，適確に表現できずに自分の経験の範囲で何とか理解しかけている。残りの37.5%は関連のないものを想像している。

せっけいずをせっけから＜せっけん，せっけんをけずること，せっけんのおもちゃ＞と理解しているのである。この場合，よく見ると絵の中にせっけいずが描かれているのであるが4才児において気づく子どもは1人もいなかった。

＜水，おふろにはいっていること＞という想像は，せっけいずをせっけんという音による想像から更に発展させ，身近な経験である水及びおふろを連想したものである。

＜地図，家を建てるもの，研究所，たからもの＞は，いささか関連はあると思われるがやはり身近な経験からイメージしようと努力していることがうかがえる。

ものを作ることに関連して必要なものであることはわかりかけているが，＜オートバイ作るとき見て作るもの＞として見て作るものをオートバイに発展させ，その他作ることに展開させている。例えば絵の中にせっけいずが小さく描かれているが，大きくクローズアップすれば理解できる。そしてその図面に具体的に設計図が描かれ，せっけいずと平仮名で表示されていると十分納得できたのである。

〔ひそひそごえ〕においては50.8%の幼児がわからないと回答した。

かぜをひいている時，余り声の出ない状態を連想して＜かぜをひいていること＞と理解している。こわい時にひそひそごえで物を言う場合を想像して＜こわいこと＞，老人や病人が疲れた時に声が小さくひそひそごえになることを想像して＜くたびれた声＞とも回答する。

また一方では＜大声出すこと＞＜大きい声でいうこと＞＜スーパーのこえ＞などと反対語に解釈している。

例えば「そっとちいさなこえで」「ないしょのこえで」とすると理解できたのである。

月刊絵本の4月号であるだけに，語彙の選択は特に配慮が必要である。

〔表2の考察〕

〔せいそうトラック〕という語はわからなくても，次の行の文章の説明でどのような状態のトラックなのかよくわかるわけである。即ち「きょうもせいそうトラックがごうごうはしっていきます。ごみやふるくなってすてられたものをつんで，ゴミじまへはこんでいくのです」となっている。そして，このように書き入れてあると，この次の頁からせいそうトラックという語を出し

てきても理解できるわけである。

確かに話の中では、その語（例えばせいそうトラック）を出さないと感じがとらえにくい場合がある。その時は、このような説明補足が幼児には必要である。

この絵本の場合は、絵の中でもせいそうトラックが具体的に表現されていないのである。絵で具体的にゴミをいっぱい積んだ車を表現している場合は補足の文章は不要である。絵か文章かどちらで表現するのが適切か考慮された上で、どちらかで表現されることが望ましい。

せいそうをせんそうと理解して、＜せんそうのこと、せんそうのトラック＞と答えた幼児がいた。

次の〔かきけされてしまいました〕という語は、この場面の文章にどうして使用する理由があったのだろうか。大人ならこの語の持つ状況がよくわかるが、この語がわからない幼児が40人中36名もいるという現実では、この語は生きてこないように思える。むしろ「きこえなくなってしまう」として全児理解できたほうが、話としてつながって流れていくのではなかろうか。

〔ぷっとはいきガスをはきかけただけ〕の文は、はいきガスという語とはきかけただけという複合語がいっしょになっている。この文を50%がわからないと答えた。

また回答の中にも＜かせがふくこと、ホースで火を消すこと、もえること、あついガス、水のこと＞などの概念のくいちがいがみられた。＜ガソリン、自動車が煙を出すこと＞なども幼児の生活経験から生れた想像であると思われる。

また p.20 の〔きんきゅうぎかい〕という語は全児が理解していない。しかし前後の内容に不可欠の語ではないので救われている。この語がわからなくても、この頁の内容がわからないというわけではないわけである。しかし他に適切な語があれば、それが使われるべきだろうと思う。きんきゅうをきゅうきゅうから＜おいしゃさん＞と連想している。

同じく p.20 の〔かんぜんなスクラップにして〕という状態の説明語が全児理解できていないことは致命的であろう。ここでいきづまってストーリーが切れ、内容がわからなくなってしまうわけである。

その上、次に続く文章〔いやいやすてるものをわざわざスクラップこうじょうに…〕の語さえわからないわけである。スクラップを例えば「くず鉄、切れはし」などのわかり易い日本語にして表現できなかったのであろうか。

〔表3の考察〕

調査語彙は複合語を使用することによって文学的表現をねらったのであろうが、幼児に対しては難解な箇所になってしまっている。卒直で単純な表現が、幼児特に年少児ほど望ましいと思われる。内容とは全くかけ離れた解釈をしている幼児、また半数が全然理解できなかった点から考えても素直な表現が要求されよう。

〔くさをけちらせながら〕という複合語も＜草の中を走っていくこと、草けりながらいくこと、走ること＞以外は概念からはずれた解釈をしている。その中でも＜山羊＞といった幼児は草をけちらしながら走っている犬の絵を山羊と思って回答したものを推察される。〔くたくたとす

わりこむ〕は副詞と複合語の文になっている。「疲れてくたくたや」という日常語から連想して、くたくたを＜疲れる、しんどい＞と想像した幼児もいる。また一方では、くたくたとすわりこむから＜お酒に酔った人＞をイメージしているケースもみられる。

〔表4の考察〕

〔おあいそうにわたしはしらないよ〕(p.4)のおあいそうがわかっていない上に、多種多様な想像によって他の解釈がされているようである。むしろ、おあいそうにを省いたほうが素直に受けとれるのではなかろうか。自分の生活経験からきた発想からおあいそうにを捉えている場合も多かった。例えば「あの人おあいそうやね」ということは日常生活の中でしばしば大人が使うことばである。それを大人から聴いた場を想像して、＜でんわをかける場合、きっぷを買う場合の駅員の態度、あいさつをした時の状態＞などのイメージをしたのではないかと推察される。

同じく p.4 の〔かいつぶり〕を全児理解していない。絵にも池の中にもぐってしまった後の表現しか描かれていないわけである。音による想像と池の絵という連想から＜貝がつぶる、貝の口がしまる＞と理解したり、貝を取る、つぶすや貝の口がしまっていると想像して＜貝をあける＞と答えている。また、もっと飛躍した幼児は＜買ったらつぶれた＞と理解している。p.7において、またかいつぶりという語が出てきているが、そのまま理解されずに終わっている。

幼児がはじめて耳にするようなものはせめて絵の表現として出してくるべきであるし、p.6の中に絵の表現がされているなら、その鳥の傍に目立たないように小さく書き添えておかなければどれがかいつぶりなのかかわからない。p.6の右上がかいつぶりなのだろうがわかりにくい表現である。

〔表5の考察〕

月刊絵本12カ月の中では一番難解な文章でつづられており、幼児の発達段階を十分に理解していないのではないと思われる。

p.5の〔ひときわ〕は全児わからず、「どれよりも大きく…」とするとよく理解できた。p.6の〔かくべつ〕は、その前のきつとあじもかくべつでしょうという語によって、おいしいことを理解している幼児が7名いた。「おいしいでしょう」とすれば全児理解できたわけである。

文章の美的表現、詩的表現といっても、理解できなければ幼児にとってはむだな語として終わってしまうわけである。

p.8の〔しごとをおえて〕が皆目わからないで終わっている。「すませて」「やめて」にすると理解できたのである。同じく〔ところにつく〕が1人もわからず、「ねようとしています」と素直な表現で全児理解できるのである。〔なおも〕も不要な語としか思えなかった。次の行の〔ようきに〕の語も全児わからず＜胸がいたくなる、病気のこと＞など、ようきをびょうきと理解している幼児がいた。また前の文章から判断して捉えている場合があった。ようきの前の文章——おとはだんだんちかく、だんだんようきになってくるようでした——からようきにをおとがちかくなってくるのでだんだん大きくなっていると理解した幼児がいた。その他は無回答であった。「にぎやかに、たのしく」とすれば理解できた。

p.10の「まつりばやしのね」は全児わからず、〈木の根っこ〉と理解している幼児が2名、その他はわからなかった。「おと」とすれば全児理解できたわけである。

同じく p.10に「とこ」が2回出てくるが、いずれも全児わからなかったのである。とこを〈家や理髪店（とこや）〉と理解する幼児もいた。〈毛が抜ける〉の回答をした幼児の場合は、とこやの発想から、とこをぬけだすを毛が抜けるとイメージしているように推察される。

「おはやし」という語もわからず、〈おまつりのこと〉と理解した幼児が2名いたのみであった。「おまつりのおと」とすればよくわかったのである。

p.12の「かぼちゃをもちで」も回答できず、「かぼちゃをとって」とするとわけなく理解できた。「おなじころ」も理解されず、適切な表現法がないものかと考えてみたが難しかった。特に幼児の場合、時間の観念についての理解は困難である。「ひとすじの光」もわからず、あってもなくてもいい語として省いたほうがわかりやすいように思える。「どうじに」も理解されず不要の語として切り捨てたほうがいいように思われた。次の「いちだんと」も理解されず、「もっと、大きく」という語にすると全児理解できるわけである。p.14の「そのてつきのしなやかなこと」も、おどりをおどっている状態としてだれも理解せず、〈棒のこと〉〈走るようなこと〉という反応語がとび出したのである。

「あしはこびのかるやかなこと」も同様にわからなかった。「手をふり足を上げて上手におどりました。そのじょうずなこと」という文章ではよくわかるのであるが、これでは文学的価値がないだろうし、幼児にわかる美しい表現の難しさを感じた。

p.17の「ねじりはちまきをきりりとしめた」という語もわからず、絵の中に具体的表現があればわかっただろうと思うのである。

「いっしんふらんに」も全児わからず「いっしょうけんめいに、夢中になって」とすると理解できたのである。「いせいのいいかけごえ」も「元気のよい」で理解できたわけである。

「うきうきしてくるようなこうけい」も意味が理解できず、「うきうきしてくるようでした」で十分理解しているようである。むだな語として難解な語が入ってくるばかりに、要らぬ想像をめぐらせて余計混乱させてしまうなら、むしろないほうがイメージの断絶を防ぐと思う。

p.18のいつもの「じごく」もわからず〈じごく、こわいこと、おばけでること〉などの回答をする。音による想像から〈じごく〉と知覚し、〈こわいこと、おばけでること〉などの反応語が出現したものと推察される。まちがってイメージされるよりも、省いても何ら支障のない語であると思われる。

「そのかたわらに」もわからず、「そのそばに」とすると理解できた。

p.20に一ざいりょうをみつけるのも、さいくをするのもたいへんです。どうにはほそいたけをつかい…中略…。かわは、しぶをぬったうすいかみではりました—という文章がある。同じ文章の行にこれだけ了解しえない語が出てきたのでは内容はわからないことになるだろう。

p.24—ためしにうつえんりょがちなおとがきこえてきました…中略…そのねいろから、ちいさなひとたちがどんなによこんでいるかがわかりました—も全児理解できなかった。

p. 28〔なんとやさしいところねだ〕を試しに小学校1, 2年生数名に聞いてみたがわからなかった。

全体にこの絵本は語の使い方が難しすぎるようであった。難解な語があっても内容がわかればまだいいが、難解な語のために内容、ストーリーが切れてしまうのでは逆効果になると思うのである。

〔表6の考察〕

p. 2の一こめのかわりにあわやきのねやくさをたべていた—という中の〔あわ〕という語が理解されていない。〈せっけんのあわをたべる〉から〈おなかがすく〉と何でもたべてしまうに発展し、〈せんたくする〉にまで想像転化して理解していた。

わからなくても別段ストーリーに関係はないので素通りすればいいのだが子どもたちにはそうはいかない。他の内容に転化して想像し理解しているわけである。このように異った意味に理解されるのならば、むしろあわという語を出してこないほうがいいようにも思うのである。

p. 14の〔のらへでる〕という語も、いろいろなイメージの展開がなされている。〈ドライブへいくこと〉と解したのが4名もいたが、聴覚的弁別^{おん}の音からの発想と身近な生活経験の想像であると推察される。〈おぼけが出ること、家出〉までとびだしてくる始末である。〈犬のおうちへいく〉は犬をのら犬と解したにちがいない。「はたけへいった」とすれば全児理解できたのである。折角よいと思って使った文が迂回されて理解されないのなら、むしろそのままの率直な表現にしまったほうがいいと思える。

p. 27の〔ほうさくのまつり〕も、ほうさくという語がわからないために死語になってしまっている。「お米がたくさんとれたお祝いのまつり」とすれば理解できた。

〔表7の考察〕

p. 2～p. 3においては、おやじさんとおかみさんの関係が書かれているにもかかわらず子どもたちはそのことを理解していない。即ち文章の説明理解は殆どされていない状態である。p. 2では…おじさんが鎌をふりあげて草を刈っていて、兎を追っかけ殺されて帰っていく、夕方でアヒルがいる…というように絵の表現から理解し文章内容はわかっていない。

p. 4～p. 5も…おじさんが帰ってきたらイスがひっくりかえり、ヤカンがころがっていた…という状態を絵で見て理解し、話の内容は余り理解していない。

絵の中にあるものを文章でまた説明しているという絵本が多い中で、この絵本のp. 2～p. 5までは絵でしか表現できないものは絵で、文章でしか表現できないものは文章で表現しているので理想的な絵本の形態に近いように思えるのだが、余りにも文章表現が難解で、絵の表現と文体が遊離しすぎていて、幼児には理解できないものになっているようである。故に〔きむずかしく〕という語でも、絵のこわい表情のおやじさんを見て、〈こわいこと〉と理解している幼児もいれば、その他の絵の表現から〈兎が逃げまわり、てんとう虫、草をかること〉としてきむずかしくを理解している子どももいた。

〔ねんがらねんじゅう、がなりたててばかりいること〕という語も、同様に周囲の絵の状況説

明をしている幼児がいるわけである。

p. 6の3行目の文章から、文と絵が一致したものになり、pp.10～11ではマンガ的こま絵の表現が生き、面白い表現に終りまで幼児は興味を持って理解できたのである。

〔表8の考察〕

p. 5の〔たんだのせつく〕という語が理解できない。しかし「こいのぼりの日」といえば、子どもたちはよく知っているわけである。この文章表現を幼児の理解できるものにするにはどうしたらよいのだろうか。絵に表現することも一つの方法として考えられるが、言葉の表現力にやはり工夫がほしいと思うのである。

p. 6の〔はれぎがないのでふだんぎでいきました〕を「いいふくがないのでいつものふくでいきました」とすれば全児理解できたのである。

〔どひょう〕も理解されず、この場合は絵の表現があればと思ったのである。p. 9もどひょうの絵がない。〔まわしをにぎる〕も、すもうを知らないとわからないわけである。

p.13の〔たいぼくのところまで…、たいぼくのしたで…〕という語はわからなかった。「おおきなき」で理解する。p.14にまたたいぼくがでてくるがわからないままに終わっている。

p.23に〔ふねのようなおおきなわらじ〕とあるがわからない。絵の表現からも理解しにくい。

p.28の〔ちいさいときからおかねにいじめられてきたからね〕のようなもってまわった表現は幼児の絵本の文章だろうかと疑問に思う。

〔表9の考察〕

言葉遊びとしての回文を絵本の中で扱ったものであるが、無理が多くあってここまでしなくてもという問題点がでてくる。こじつけも甚しいように思える。

p. 4の〔かるいきびんなこねこ〕は逆に読めても、語の意味がわからないのでは回文の面白さがないわけである。

p. 6の〔わかいかわ〕とはどういう意味なのかわからない。幼児のパラエティーに富んだ回答から理解していないことが明らかである。

p. 7の〔にかいめいかに〕, p.11の〔かんけいがないけんか〕も子ども離れした大人の表現である。

p.18の〔くどいかお〕も幼児にはわからない。くどいを耳で聞いてくろいと理解している幼児もいる。

意味もわからないのに、こじつけて多くの回文が扱われている。もっと少くともよいから理解できる中から選べばよかったと思う。例えば単語なら「トマト、やおや、しんぶんし、ちち(父) はは(母)」などがある。たくさんの絵の中から幼児自身が探して遊べる頁もあっていいと思う。長い文章でも幼児にわかり易いものを選べば抵抗なく理解できると思われる。例えば「だんすがすんだ、なつまでまつな、よきつきよ、るすになにする、わたしまけましたわ」などは幼児の発達段階で文章の内容を理解して喜ばれるのである。

考 察 の 総 括

以上9冊の絵本の中から抽出した多様な言葉と幼児との関係を調査し、その反応語について考察した。

この調査と考察によって作者と読者との関連、作者の語彙使用に対する配慮の苦心までが結果として理解できたのである。

1. 生活経験と言語理解

一つの語が多くの変った意味を包含するという事は当然である。しかし大人の文学でなく読者である幼児を考慮して製作された月刊保育絵本の場合は、多くの同じ単語の中でも表現の型が異なるものの中で出来る限り幼児の発達に即した語が選択されることが望ましい。

いかなる意味内容も幼児自身が経験していないことは理解できないという事実は既に周知の通りである。未知なる言葉が理解されるのは、その表現内容が幼児の生活経験の中に事前に準備されているか、生活経験の中から幼児が推察できる範囲内のものに限定されてくるのである。故に作者がストーリーに適切な言葉を使用したにもかかわらず幼児に理解されない場合は、媒介者である教師や母親が事前にその語について幼児に理解させる下準備が何らかの方法でなされる必要がある。

2. 言語発達に応じた表現構成

幼児には難解な言葉であっても、作者の立場で考えた場合、文体のリズムや調子によって当然このような語彙の扱いによる表現がなされるべきだという箇所も調査語の中に指摘できたが、今回は4才児の立場からの特定の視野に限った中で考察を試みた。しかし作品の中でなぜこの言葉を使用しなければならないのか、その必然性を問うてみたい文学的表現があったことも事実である。

いずれにしても絵本の文体、言葉には幼児の言語発達に応じた表現構成があつてしかるべきであるし、その研究が深められねばならない。

J. J. Rousseau は「子供が言葉を理解する実状にわれわれが不注意である事が子供の最初の誤謬の原因であるように思われる。そしてその最初の誤謬は、それが正された後にも一生涯その子供の性向に大きな影響をもつ」ということを『エミール』の中で述べている。即ち幼児に対する言葉の理解の重要性を指摘し、言葉の発達的研究の必要性を強調しているのである。

文学的、芸術的な表現と、二律背反とは思えない。幼児の言語発達の認識をふまえた上で書くということは文学的、芸術的配慮を考えないということは、殊更に幼児性、幼児語を強制した幼児の発達を考慮しない情緒的表現の文体を指すと考える。

3. 作者と読者の歩みよりの必要性

幼児の成長発達という視点から考えた場合、新しい言葉を絵本の中で獲得するということは大切である。しかしこの場合作者はその作品に適切な語を同じ単語で表現の型が異なるものの中から

幼児の発達を考慮して選択し、その語をいかに幼児に推察されるように絵本に表現するかを考慮されることが望ましい。ここではじめて幼児が新しい言葉を獲得していき、読者である幼児に少しでも近づく方法が見出せると思うのである。一場面の中に5箇所も理解できない語があってもよい。むしろ幼児不在の絵本が新しい言葉を獲得する面からの成長発達を助けるものとは考えられない。

言葉をその作品に使用する前に必然性はどこにあるのかが作者によって追求され、媒介者と幼児、作者との相互交流の場が持てる作品の内容であってほしいと思うのである。即ち幼児にわからせる事前指導と作者による追求の二段構えが大切になってくる。ここではじめて作者と読者との両者の歩みよりによる相互交流が持てるのである。即ち文学的必然性から作者がある言葉を使用した場合において、媒介者が幼児にわからせるための働きかけの問題が大切であろう。また一方では作者に文学的表現の可能な範囲内において幼児の発達を考慮した上での表現構成をして、それによって幼児の理解に訴えようとする努力が望ましい。

4. 語の前後関係相互牽引の表現形態の必要性

今回の反応語調査については多くの疑問を持ちつつ、一つの視点のみから考察してきたが、さまざまな問題点が指摘できる。

1) 語を抽出して調査することについての疑問。

語の前後関係（例えば「さわがしいおとがきこえる」という文章の「さわがしい」と「きこえる」はおとという語の前後関係にある）はその語と密接に結びついた一つの表現形態である。その中から一部分を抽出してくるということは、抽出してきたものの意味までも変容させる危険がある。故に調査の段階では出来るだけその語のみを抽出するのではなく、幼児と共に絵本を見ながら文章を読みきかせて調査対象としている言葉について質問したのである。

しかし調査してみた結果明確になったことは一部を抽出してきてもこなくても甚しい変化を受けられないですむ語が多く指摘できたということである。即ちその語のみが孤立していて前後関係の結びつきが配慮されていないものが多かったのである。

「冠で王という意味を顕現させるには、両者が結び合わされるのに適当な前後関係が必要である。無数のことばがあるのに、人間の用いている表現がことばだけ遊離したものにならず、ある群によってまとめられ、崩れないでいるのは、この前後関係領域においてはたらく相互牽引の力によるのである」と外山滋比古は『修辞的残像』の中で述べている。

故に絵本の創造における場合においてもその語の前後関係が相互牽引の力を持つように配慮された文章構成が大切な表現形態となってくるのである。

2) 理解度という調査語使用の問題

言葉を理解するということが大人と幼児では同じ次元において考えられないものであるから理解という語も簡単に使用できるものではない。

結　　び

今回の調査によって読者である幼児の言語発達面から考えた絵本製作の困難性と将来への具体化の展望について若干の指針を得た。

幼児の段階における絵本というものは自分で文字を読んで理解するよりも、教師や母親を媒介にして読んでもらって知覚し、体験的に理解するのである。このような視点から以上の調査結果を見ていくと、品詞の中でも名詞が理解しにくい語として優位を占め、91語中37語（41％）であった。また先にも述べた通り聴覚的弁別によって幼児は多様な言語表現の回答をしていたが、これらはすべてそれぞれの幼児の生活経験によって表象され言語化されたものである。

今回の研究に続いて調査資料を集め、絵本に示された言葉の品詞別に考察を試み、文と絵とのからみあいの問題について、調査資料の分類項目に基づいて研究を行う予定である。それによって児童文化領域の中での絵本と読者との相互関係を軸とした絵本論を確立していきたい。

稿を終えるにあたり、ご指導ご助言いただきました京都女子大学児童学科児童文化学研究室中川正文教授並びに大阪樟蔭女子大学児童学科児童心理学研究室名倉啓太郎教授に対し厚く感謝の意を表します。

船越：絵本の言葉と読者との相対性に関する研究

資料1 調査語についての幼児の反応語

表1 あらいぐまとねずみたち（4月号）

調 査 語	反 応 語	人 数
おそるおそるで くる	わ か ら な い	25名
	ね ズ み	2
	く も	1
	か み な り	1
	かみなりがおちてくること	1
	かみなりが鳴りだすこと	1
	雨 の こ と	1
	ひこうきがとんでくること	1
	はっぱのこと	1
	仕事をする	1
	ゲームのこと	1
	ついてくること	1
	家出すること	1
	おそろいのくつ	1
	おそくでてくること	1
せっけいず	わ か ら な い	14名
	オートバイ作るとき見てつくるもの	1
	研 究 所	1
	つ く る こ と	1
	きかいつくること	1
	ロボットつくること	1
	はたらくせっけいず	1
	地 図	2
	道のこと。何でもわかるようになり、研究所へ行きたいと思ったら行くこと	1
	何かつくるもの	1
	見てやるもの	1
	か み な り	1
	紙 の こ と	1
	プラモデル作るとき見るもの	1
	図 面 の こ と	1
	水 の こ と	1
	血 と る こ と	1
	家 の こ と	1
	お家を建てるもの	1
	せっけんをけずること	1
	せっけんのおもちゃ	1
	た か ら も の	1
	せ っ け ん	1
	おふろはいつていること	1
	くるまのこと	1
	お 空 の こ と	1
ひそひそごえ	わ か ら な い	23名
	静 か な 声	1
	静かに話すこと	1
	ひそひそってすること	1
	ないしょ話すること	1
	お話してること	1
	静かに外でお話すること	1
	声 の こ と	1

調 査 語	反 応 語	人 数
ひそひそごえ	かせひいてること	1
	お便所つくること	1
	こ わ い こ と	1
	大きい声でいうこと	1
	大声出すこと	1
	スーパーのこと	1
	くたびれた声	1
	自分でつくったおはなし	1
	ひそひそしてあるくこと	1
	大きな山のこと	1

表2 クリーナーおばさんとカミナリおばさん
（5月号）

調 査 語	反 応 語	人 数
せいそうトラック	わ か ら な い	14名
	ゴミをはこぶトラック	9
	ゴミすてばへはこぶトラック	1
	ゴミすてるトラック	4
	ゴミあつめのトラック	1
	ゴミをつんだりする	2
	ゴミじまへはこんでいく	1
	せいそうする車	1
	戦争のこと 戦争するトラック	2
	車	1
	青くて大きい	1
	ト ラ ッ ク	1
	れいぞうこをのせている車	1
	お仕事やって、こわれた機械をゴミ じまへはこぶ	1
エンジンの音にか きけられてしま いました	わ か ら な い	28名
	エンジンの音の方が大きいから、き こえないこと	1
	エンジンの音で声がきこえなくなる こと	1
	ガソリンがへったこと	1
	音がきこえへんこと	1
	きこえへんこと	1
	ガスがけされたと思う	1
	ち が う 音	1
	自動車がこわれてしまうこと	1
	エンジンがこわれること	1
	クリーナーおばさんがおこったこと	1
	車がばくはつすること	1
	カミナリがやんだこと	1
ぶっと はいきガ スをはきかけた だけだ	わ か ら な い	20名
	く さい ガ ス	1
	油 の カ ス	2
	ガ ス の こ と	1
	白 い ガ ス	1
	ガ ソ リ ン	1
	クリーナーおばさんがおちたこと	1
	水も湯もでて何でもできるガス	1
	きたないにおいのガス	1
	長四角に入れたガス	1

調 査 語	反 応 語	人 数
ふっと はいきガスを はきかけただけだ	耳の中へはいて死ぬこと	1
	かぜがふくこと	1
	なんかはこぶこと	1
	自動車が煙を出すこと	1
	ホースで火をけすこと	1
	はいきしているガス	1
	もえること	1
	水のこと	1
	あついガス	1
	冷ぞう庫のこと	1
きんきゅうぎかい	わからない	21名
	機械のこと	4
	動かんこと	1
	仕事すること	2
	おいしゃさんのこと	1
	ゴミをもやすこと	4
	ゴミすてること	5
	トラックがつぶれること	1
	ものいっぱいだすもの	1
かんぜんなスクラ ップ	わからない	24名
	こわすこと	1
	ペチャンコにすること	1
	むちゃくちゃにすること	1
	バラバラ	1
	トラックにはこぶこと	1
	火を消すこと	1
	事件のこと	1
	ドロドロになったこと	1
	トラックのこと	1
	にもつはこぶこと	1
	ゴミすてること	2
	かんぜんなえんとつをつくること	1
	自動車をつむこと	1
	ガスがもえたこと	1
	動くこと	1
ぶんかいしちゃう	わからない	20名
	とってこわす	1
	こわす	3
	むちゃくちゃにすること	2
	またこわしてつくること	2
	またつくりなおすこと	2
	つぶれること	1
	ひっくりかえること	1
	かみなり山へいくこと	1
	海に沈めること	1
	とること	1
	はいきガスだすこと	1
	しまうこと	1
	もえたこと	1
	べんきょうすること	1
	あかるいこと	1

表3 わんぱくこぞうとおんなのこ(6月号)

調 査 語	反 応 語	人 数
くさをけちらしな がら	わからない	20名
	くさの中を走っていくこと	1
	くさけりながらいくこと	1
	はしること	1
	くさをとっていくこと	1
	あばれること	1
	くさきること	3
	くさをとること	2
	くさをつむこと	1
	くさぬくこと	1
	くさけずること	1
	走りながら、くさをとること	1
	へびのこと	1
	うちの畑で働いてお金持になること	1
	いじわるすること	1
のはらをかけぬけ る	バケツのこと	1
	やぎのこと	1
	あるきながらたべること	1
	わからない	20名
	のはらをかけつて、やっどのはらの ないところへいくこと	1
	はしること、のはらをはしること	7
	のはらがあるいていくこと	1
	のはらをぬける	1
	ぬけること	1
	のはらであそぶこと	3
	くさとること	1
	くさきること	1
	畑をあらすこと	1
	でていくこと	1
	とんであそぶこと	1
	のはらより、とおいところへいくこ と	1
くたくたとすわり こむ	わからない	18名
	しんどそうにすること	1
	つかれてすわること	1
	しんどいといってすわること	2
	しんどなったこと	2
	くたびれること	2
	しんどいから	1
	ビャーとすわること	1
	うえむくこと	1
	おさけ	1
	せなかをまっすぐしない	1
	すわってしんどい	1
	おひさまがでていて働いていて、 すわること	1
	おやまのぼってて、しんどくなるこ と	1
	もうたおれること	1
	くたくたとなること	1
	しぬこと	1
	けまりがバーンとばくはつすること	1
	いすのこと	1

船越：絵本の言葉と読者との相対性に関する研究

表4 しちめんちょうとおばさんのこどもたち
(7月号)

調 査 語	反 応 語	人 数
ぶあいそうに	わ か ら ない	25名
	おせわになった	1
	かぞえること	1
	きっぶかうこと	1
	でんわかけること	1
	ごめんなさいということ	1
	でんわきること	1
	ごあいさつのこと	1
	とりのこと	1
	ひとがあるいていること	1
	おせわになったということ	1
	うみからはまったこと	1
	かっこいいこと	1
	りんごをたべること	1
	せんたくのこと	1
	やきゅうのこと	1
かいつぶり	わ か ら ない	17名
	かいの口がしまる、かいの口がつぶれること	1
	たまのこと	1
	いきること	1
	かいそうの中にもぐること	1
	かやくまくこと	1
	でんでんむしをたべること	1
	まめつぶたべて、あわになって、それからたべるもの	1
	かいをつぶすこと	2
	うみのこと	1
	うみからでてくること	1
	かいのこと	1
	かいとること	2
	おにくかうこと	1
	おまつりのこと	1
	かいをあげること	1
	おうちがつぶれること	1
	つぶすこと	1
	かったらつぶれたということ	1
	イスにすわること	1
	おきなやまのこと	1
	おもちゃのこと	1

表5 ちいさなたいこ (8月号)

調 査 語	反 応 語	人 数
ひときわ	わ か ら ない	38名
	おいしそうな	1
	大きくなること	1
きつと味も かくべつでしょう	わ か ら ない	32名
	おいしそうなこと	1
	おいしいこと	5
	味がいいこと	1
	たべること	1

調 査 語	反 応 語	人 数
しごとをおえて	わ か ら ない	36名
	ねてるばんのこと	1
	やめること	1
	しごとに行くこと	1
	たべものをみつけたあと、もってかえってたべること	1
ところにつく	わ か ら ない	37名
	音がきこえる	1
	た ん こ ぶ こ こ ろ	1
なおも	わ か ら ない	37名
	おどろくこと	1
	きこえること	1
	タイコがきこえてた	1
ようきに	わ か ら ない	36名
	大きくなってること	1
	タイコたたいておどること	1
	病気のこと、胸がいたくなる	2
まつりばやしのねは	わ か ら ない	35名
	根 っ こ	1
	木 の 根	2
	ねこの名前	1
	かぼちゃの中に何かおどってんの	1
ところをぬけだして	わ か ら ない	35名
	家を出て	1
	外へ出たこと	1
	でていくこと、でること	2
	毛がぬける	1
おはやし	わ か ら ない	36名
	おまつりみたいなこと	1
	タイコたたくこと	1
	タ イ コ	1
	おはようのこと	1
かぼちゃをもちで	わ か ら ない	37名
	光がでること	1
	指つっこむこと	1
	で き る こ と	1
おなじころ	わ か ら ない	38名
	きのうのばんのおなじ時間	1
	おんなじのこと	1
ひとすじの光がもれています	わ か ら ない	40名
どうじに	わ か ら ない	39名
	穴があいていること	1
いちだんと	わ か ら ない	39名
	まわりにひびくこと	1

調 査 語	反 応 語	人 数
そでつきのしなやかなこと	わ か ら な い 走るようなこと 棒 の こ と	39名 1 1
あしはこびのかるやかなこと	わ か ら な い 人間がおどっているみたいなこと	39名 1
ねじりはちまき	わ か ら な い うんどうかいにしているハチマキ	39名 1
いっしんふらんに	わ か ら な い ふ る こ と もえるようなこと たべるもののこと、おもいだすこと	37名 1 1 1
いせいのいいかけごえ	わ か ら な い おどってるこえ	39名 1
うきうきしてくるこうけい	わ か ら な い 体の中がわいてくるような	39名 1
いつものじこく	わ か ら な い 光がかがやくようなこと	39名 1
そのかたわらにやぶれダイコが	わ か ら な い 困っていること	39名 1
ざいりょうをみつけるのもさいくをするもの	わ か ら な い 忙 しい こ と	39名 1
どうにはほそいたけをつかい	わ か ら な い	40名
しおをぬったうすいかみではりました	わ か ら な い	40名
ためしにうつ	わ か ら な い にぎやかなこと	39名 1
ねいろ	わ か ら な い 聞 く こ と ぬ る こ と	38名 1 1
ころね	わ か ら な い	40名

表6 くずのはやまのきつね (10月号)

調 査 語	反 応 語	人 数
あわをたべる	わ か ら な い あわを口に入れてしまう おなかがすくこと せっけんの中へ入ること せっけんをたべること せんたくすること あわみtainなものをつたべること せんたくをたたむこと お湯のあわをたべること	25名 1 1 1 1 1 1 1 1

調 査 語	反 応 語	人 数
あわをたべる	せっけんのあわをたべること みかんたべること 水 の こ と ベルトのこと は し る こ と おさかなのこと こめがないから、あわたべるの	1 1 1 1 1 1 1
のらへでる	わ か ら な い はたけではたらくこと 人がのはらへでること うちがこわれて、すきまから出てくること 電車のうって、どこかへでかけること お花が咲いてきれいなこと おばけがでること いのちのこと おうちから、でかけること 家出すること で かける こ と た べ る こ と 静かなところからでる 静かに外に出ること 犬のおうちへいくこと 林にそっと出ること けむりのこと ドライブへいくこと	19名 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 4
ほうさくのみまつり	わ か ら な い ほうさくというこのまつり まつりをそこらでやること まつりすること お ま つ り 村でいろんなまつりすること、村のまつり ぼんおどりのこと かぼちゃの中に入るおまつり 大人だけ入るおまつり よみせのこと 人がおどったりしてるの 秋のおまつりのこと 宝石のおまつりのこと おまつりがでること みちがひろいこと テニスのこと	20名 1 1 2 4 2 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1

表7 しごとをとりかえたおやじさん (11月号)

調 査 語	反 応 語	人 数
きむずかしく	わ か ら な い いちばんわるいこと わ る い こ と うさぎが出てきたこと なんかで殺したりすること お こ る こ と	21名 1 1 1 1 1 1

船越：絵本の言葉と読者との相対性に関する研究

調 査 語	反 応 語	人 数	調 査 語	反 応 語	人 数
きむずかしく	ころすこと	1	ばくそう	ひよこがごはんたべること	1
	かなしいこと	1		あひること	1
	むずかしいこと	3		ゴルフのこと	1
	草かりのこと	1	きせつ	わ か ら ない	25名
	はっぱのこと	1		切 る こ と	1
	うさぎを殺すこと	1		つかまえること	1
	きもちわるいこと	1		てんとう虫のこと	4
	お山で木がつぶれること	1		走 る こ と	1
ねんがらねんじゅ	わ か ら ない	22名		いっばいつくすること	1
	いつものこと	3		お 花 の こ と	1
	あばれること	1		いちばん大事なきせつのこと	1
	ずっと夜になること	1		あ つ い こ と	1
	死んだらあかんということを確認すること	1		草がはえること	1
	この草をきること	1		お日さまのこと	1
	鎌 の こ と	1		りんごをガスにもやすこと	1
	働 く こ と	2		白い花をとって赤ちゃんにあげよう と思ったけど毒なのではかした	1
	むずかしいこと	1	かりいれ	わ か ら ない	24名
	い す の こ と	1		うちへかえること	1
	怒 る こ と	1		英 語 の こ と	1
	動物をつかまえること	1		怒 る こ と	2
	兎がとんでること	1		つ く っ て る	1
	お日さまが出て、お月さまがでること	1		か い た こ と	1
がなりたててばかり	わ か ら ない	24名		葉っぱをつくること	1
	おこってばかりのこと	3		草をかること	1
	お こ る こ と	1		木 の こ と	1
	かんがえること	1		ごみ箱に入れる所	1
	おかみさんを大事にして、考えてあげてあったかくすること、愛する事	1		ごはんつくるとき、お茶こぼしたらあかんこと	1
	こわいおじさんのこと	1		草をとってきたかえり	1
	いっばい畑をつくること	1		おじさんがかついでいる棒のこと	1
	あひること（僕を見て）	2		おじさんが草をとってこること	1
	落ちた時のこと	1		こぼれたこと	1
	下 の こ と	1		かぼちゃなんかを出すこと	1
	畑でおしごとすること	1	れいによって	わ か ら ない	23名
	ひかれること	1		お こ った こ と	1
	畑をしたくないこと	1		お こ る こ と	1
	てんとう虫が歩いていること	1		腹を立てていること	1
ばくそう	わ か ら ない	21名		む っ か し い	1
	この草（指でさして）のこと	4		ごはんがおいしかったこと	1
	どろぼうのこと	1		お日様をお部屋に入れてホカホカにすること	1
	おじさんのこと	1		おふろに入ること	1
	お こ る こ と	1		いすがひっくりかえっていること	2
	けんかすること	1		いすをこかしたこと	1
	はしりっこのこと	1		あ か ん こ と	1
	熊やら赤ちゃんもつれてきて、お花のあるところで遊ばすこと	1		外へでること	1
	どこかへいくこと	1		ちらかしていること	1
	鎌 の こ と	1		畑にもっていくもの	1
	ゆうがた、夕方帰ること	1		水をこぼすこと	1
	牛がいるところのこと	1		こぼしたことをおこらはること	1
	つくえのこと	1		おじいさんが山に登って金の玉子を はかすこと	1
	おうちへ早く帰ること	1			

調 査 語	反 応 語	人 数
もうしでに	わからない	22名
	いつものこと	1
	名前のこと	1
	よろこぶこと	1
	迷惑をかける	1
	やさしくなったこと	1
	だれか来たら怒ること	1
	困ること	1
	おじさんがついでいる水のこと	1
	おふろつくる人	1
	お話すること	1
	お茶びんがひっくりかえたこと	1
	いすをこかしたらだめだということ	1
	何かたたくこと	1
	遊ぶこと	1
	明日から仕事すること	1
	畑にいくこと	1
	はいはいっていうこと	1
	ごはんつくること	1
よくあさ	わからない	25名
	あさのこと	2
	今日の朝	1
	バカのこと	1
	花畑のこと	1
	おてつだいのこと	1
	ビンにまぜたものをこぼすこと	1
	えさのこと	1
	絵本のかまを指さす	1
	ふえのこと	1
	草をかること	1
	早くおきること	1
	しごとをすること	1
	ふろにはいること	1
	はたらくこと	1
か ま	わからない	15名
	くさをかるもの	2
	くさをとるもの	2
	木のこと(かたい木のこと)	1
	魚などを入れてやくもの	1
	牛をやねの上にのせること	1
	木をたおすもの	1
	やねから机とかおもちゃを落とすこと	1
	まるくてお月さんのようなもの	1
	何かつくるもの	1
	何か入れるもの、ものを入れるもの	3
	はたけをつくるもの	1
	かごのこと	1
	かまきりのこと、食べること	1
	ごはんをたくもの(お釜を連想)	1
	かばんをもつこと	1
	おなべのこと(お釜を連想)	1
	たたくもの	1
	あそぶこと	1

調 査 語	反 応 語	人 数
か ま	おてつだいのこと	1
	ごみを入れるもの	1
	たまごをわるもの	1

表 8 トケビにかつたバウイ (12月号)

調 査 語	反 応 語	人 数
さくおとこ	わからない 仕事をする男の人	37名 3
たんのせつく	わからない すもうすること	39名 1
はれぎ	わからない 仕事をする服	39名 1
ふだんぎ	わからない	40名
どひょう	わからない すもうのまるいやつ	37名 3
まわしをにぎったとき	わからない すもうのここにまいたひも(お腹をさして)	37名 3
たいぼく	わからない 穴、ほら穴	39名 1
わらじ	わからない わらでつくったぞうり 木のこと	38名 1 1
ちいさいときからおかねにいじめられていた	わからない	40名
トケビ	わからない 鬼みtainやつ わるいやつ 大きくてわるいやつ	37名 1 1 1

表 9 つつみがみつつ (1月号)

調 査 語	反 応 語	人 数
きびんなこねこ	わからない	26名
	かるいこねこ	2
	おひげついているねこ	1
	珍しいこねこ	1
	いろんなことでけんかすること	1
	わるいこねこ	2
	きたないねこ	1
	わかいねこ	1
	静かなねこ	1
	しましまのねこ	1
	昔のねこ	1
	かわいいねこ	2

船越：絵本の言葉と読者との相対性に関する研究

調 査 語	反 応 語	人 数
わかいかめ	わ か ら な い	20名
	広 い こ と	3
	細 長 い か わ	1
	すばらしいかわ	1
	すごく広くてきれいなかわ	1
	と お こ と	1
	魚が泳いでて、スベリっこみたいにスベルこと	1
	細 い こ と	1
	わ か い こ と	3
	ふにゃふにゃした川	1
	浅 い こ と	1
	きれいな水がとおっている川、きれいなこと	2
	まだ生まれたとこの川	1
	たおれそうな川	1
	昔 の 川	1
	魚 の 川	1
にかいめいかに	わ か ら な い	26名
	かにのこと、かにさんがいること	2
	と お こ と	2
	魚 と る こ と	3
	川が2つあること	1
	石おとしてわたること	1
	すずめのこと	1
	にかいめ川をとぶということ	1
	にかいめそうじしているとき、きたらあかんこと	1
	にかいだちのうち	1
	お母さんがわらっていること	1
かんけいないけんか	わ か ら な い	18名
	やってないということ	1
	仲なおりすること	1
	けんかはあかんこと	1
	何もしてないけんか	1
	かんけいないのにけんかやること	1
	けんかじゃないこと	1
	犬やとりのけんか、犬たちがけんかしていること	2
	や め る こ と	2
	何 も な し	1
	かんけいないこと	4
	何もないけんか	1
	あそぶけんか	1
	人はかんけいないの	1
	自分にはかんけいないこと	1
	みんなほっとくけんか	1
	犬と猫とおつかり合うこと	1
	家の中よどすけんか	1
くどいかお	わ か ら な い	25名
	お日さんみて、あつくなって、くろくなるかお	2
	まっくろけのかお	2
	こ わ い こ と	1

調 査 語	反 映 語	人 数
くどいかお	大きくなったり小さくなったりするかお	23名
	ものすごいけがしているかお	2
	けがしたこと	2
	ひ ど い か お	1
	夏の時にくろくなること	1
	すみをぬられること	1
	太 っ た か お	1
	太い はながぼこんとなったかお	1
	犬 の か お	1
さがすやすがさ	わ か ら な い	23名
	傘やのこと、傘のこと	2
	傘 か う こ と	1
	傘をさがしている、傘さがす	2
	店やがないこと	1
	安 い 傘	3
	安いこと傘が	1
	安い傘をさがすこと	2
	傘をさすこと	1
	さがしてもとどおりにすること	1
	さ が す こ と	1
	子どもがまい子になったこと	1
	ねずみとねこをおっかけること	1

資料 2 反応語について 6 項目に分類

分類項目についての要約

反応語について総括して分類項目全般についての考察を資料 1 に基づいて試みたのであるが、資料 2 の分類項目について説明補足しておきたい項目の要約を次に掲げてみたい。

1. かなり関連している

表現形態は直接正解になっていなくても、この範囲内において理解されていれば、内容を把握されていると判断したものを選択した。幼児の生活経験の世界の中でせい一杯のイメージをしているものとして、かなり関連したものという項目を設けた。

2. ^{おん}音による想像

^{おん}音としているのは、幼児が媒介者を通じて絵本の内容を耳から聴いた場合に韻に基づいて語を共通して読みとっている場合である。

①はじめの音が同じだということで、他の単語の意味を想像、連想している。

あらいぐまとねずみたち（4月号）

調 査 語		
	1. かなり関連している	2. 音(^{おん})による想像
おそろおそろでてくる		おそろいのくつ(1) ゲームのこと(1) おそくでてくること(1)
せっけいず	何かつくるもの(1) 見てやるもの(1) 紙のこと(1) 図面のこと(1) プラモデル 作るときいるもの(1)	せっけんをけずること(1) せっけんのおもちゃ(1) せっけん(1)
ひそひそごえ	静かな声(1) 静かに話すこと(1) ひそひそってすること(1) 声のこと(1) ないしょ話すること(1) 静かに外でお話すること(1)	

船越：絵本の言葉と読者との相対性に関する研究

②韻に基づいて、次の別の同じような韻をもつ語をいう場合。

③音を聴いて、それから身近かな生活経験のことや動物を連想する。

以上の3項目が音によって想像される分類として考えられ、これらを総括して音による想像として分類項目とした。この分類については、東洋（幼児教育学全集4）の認知過程の知覚的弁別の内の聴覚的弁別分類項目の一部を参考にして作成した。

3. 言葉の意味を独立させて想像

かなり関連して理解しているものをイメージを発展させ、他の独立したものに転化変容させているものをこの項目に分類する。

4. 絵の中から関連なく選ぶ

言葉の意味を絵画表現の中から関連なく想像して選択している場合である。

絵があって、言葉の難解なところは絵におぎなわれている場合は望ましい絵画表現とされ、かなり言葉の理解を補助してくれるのであるが、この場合は理解されていないので、関連なくあてものの式に選択したにすぎない。

反 応 語 () は人数			
3. 言葉の意味を独立させて想像	4. 絵の中から関連なく選ぶ	5. 関連性がない	6. わからない
家出すること(1)	はっぱのこと(1)	くも(1) かみなり(1) 雨(1) かみなりがおちてくる(1) かみなりがなりだすこと(1) ひこうきがとんでること(1) 仕事をする(1) ついてくること(1)	(25)
オートバイ 作るとき見て作るもの(1) 研究所(1) つくること(1) きかい つくること(1) ロボット作ること(1) 働くこと(1)		道のこと、何でもわかるように、 研究所へ行きたいと思ったら行けること(1) 地図(1) 水のこと(1) かみなり(1) 血をとること(1) 家のこと(1) お家を建てるもの(1) たからもの(1) おふろに入っていること(1) くるまのこと(1) お空のこと(1)	(14)
かぜひいてること(1) こわいこと(1) くたびれた声(1)		お話してること(1) お便所作ること(1) 大きい声でいうこと(1) 大声出すこと(1) スーパーのこと(1) ひそひそして歩くこと(1) 自分でつくったお話(1) 大きなわのこと(1)	(23)

クリーナーお婆さんとカミナリお婆さん（5月号）

調 査 語		
	1. かなり関連している	2. 音(おん)による想像
せいそうトラック	ゴミをはこぶトラック(9) ゴミすてばへはこぶトラック(1) ゴミすてるトラック(1) ゴミ集めのトラック(1) ゴミをつんだりする(2) ゴミじまへはこんでいく(1) せいそうする車(1) お仕事やってこわれた機械をゴミじまへはこぶ(1)	戦争のこと, 戦争するトラック(2)
エンジンの音にかきけされてしまいました	エンジンの音の方が大きいからきこえないこと(1) エンジンの音で声がきこえなくなること(1) 音がきこえへんこと(1) きこえへんこと(1)	
ぶっとはいきガスをはきかけたただけだ	くさいガス(1) 油のカス(2) ガスのこと(1) 白いガス(1) ガソリン(1) きたないにおいのガス(1) 自動車が煙を出すこと(1) はいきしているガス(1)	
きんきゅうぎかい		機械のこと(4) おいしゃさんのこと(1)
かんぜんなスクラップ	こわすこと(1) バラバラ(1) ペチャンコにすること(1) むちゃくちゃにすること(1)	
ぶんかいしちゃう	とってこわす(1) こわす(3) むちゃくちゃにすること(2) つぶれること(1) ひっくりかえること(1)	

船越：絵本の言葉と読者との相対性に関する研究

反 応 語 () は人数			
3. 言葉の意味を独立させて想像	4. 絵の中から関連なく選ぶ	5. 関連性がない	6. わからない
	青くて大きい(1)	車(1) トラック(1) れいぞうこをのせている車(1)	(14)
		ガソリンがへったこと(1) ガスがけされたと思う(1) ちがう音(1) 自動車がこわれてしまうこと(1) エンジンがこわれること(1) クリーナーおばさんがおこったこと(1) 車がばくはつすること(1) カミナリがやんだこと(1)	(28)
		クリーナーおばさんがおちたこと(1) 水も湯も出て何でもできるガス(1) 長四角の入れたガス(1) 耳の中へ入って死ぬこと(1) かぜがふくこと(1) なんかはこぶこと(1) ホースで火を消すこと(1) もえること(1) 水のこと(1) あついガス(1) 冷ぞう庫のこと(1)	(20)
		動かんこと(1) 仕事すること(2) ゴミをもやすこと(4) ゴミすてること(5) トラックがつぶれること(1) ものいっぱいだすもの(1)	(21)
		トラックにはこぶこと(1) 火を消すこと(1) 事件のこと(1) ドロドロになったこと(1) トラックのこと(1) にもつはこぶこと(1) ゴミすてること(2) 自動車をつむこと(1) かんぜんなえんとつをつくること(1) ガスがもえたこと(1) 動くこと(1)	(24)
		またこわしてつくること(2) またつくりなおすこと(2) かみなり山へいくこと(1) 海に沈めること(1) とること(1) はいきガスだすこと(1) しまうこと(1) もえたこと(1) べんきょうすること(1) あかるいこと(1)	(20)

わんぱくこぞうとおんなのこ（6月号）

調 査 語		
	1. かなり関連している	2. 音(おん)による想像
くさをけちらしながら	くさの中を走っていくこと(1) くさをけりながらいくこと(1) はしること(1) あばれること(1)	
のはらをかけぬける	のはらをかけってやっどのはらのないところへいくこと(1) はしること, のはらをはしること(7) のはらをぬける(1) でていくこと(1) のはらよりとおいところへいくこと(1)	
くたくたりすわりこむ	しんどそうにすわること(1) つかれてすわること(1) しんどいといってすわること(2) しんどなったこと(2)くたびれること(2) しんどいから(1) すわってしんどい(1) おやまのぼっててしんどくなること(1) もうたおれること(1) くたくたとなること(1)	
しちめんちょうおばさんの こどもたち（7月） ぶあいそうに		
かいつぶり		

船越：絵本の言葉と読者との相対性に関する研究

反 応 語 () は人数			
3. 言葉の意味を独立させて想像	4. 絵の中から関連なく選ぶ	5. 関連性がない	6. わからない
	やぎのこと(1)	くさをとっていくこと(1) くさきること(3) くさをとること(2) くさをつむこと(1) くさぬくこと(1) くさけずること(1) 走りながらくさをとること(1) へびのこと(1) うちの畑で働いてお金持になること(1) いじわるすること(1) バケツのこと(1) あるきながらたべること(1)	(20)
ぬけること(1)		のはらがあるいていくこと(1) のはらであそぶこと(3) くさとすること(1) くさきること(1) 畑をあらすこと(1) とんであそぶこと(1)	(20)
おさけ(1)		ピャーとすわること(1) うえむくこと(1) せなかをまっすぐしない(1) おひさまがてっていて働いていてすわること(1) しぬこと(1) けむりがバーンとばくはつすること(1) いすのこと(1)	(18)
	とりのこと(1)	おせわになった(1) おせわになったということ(1) かぞえること(1) きっぷかうこと(1) でんわかけること(1) ごあいさつのこと(1) ひとがあるいていること(1) うみからはまったこと(1) かっこいいこと(1) りんごをたべること(1) せんたくのこと(1) やきゅうのこと(1)	(25)
かいの口がしまる・かいの口がつぶれる(1) でんでんむしをたべること(1) かいをつぶすこと(2) かいのこと(1) かいとること(2) かいをあけること(1) つぶすこと(1) かったらつぶれたということ(1)	うみのこと(1)	たまのこと(1)いきること(1) かいそうの中にもぐること(1) かやくまくこと(1) まめつぶたべてあわになってそれからたべるもの(1) うみからでてくること(1) おにくかうこと(1) おまつりのこと(1) おうちがつぶれること(1) イスにすわること(1) おおきなやまのこと(1) おもちゃのこと(1)	(17)

ちいさなたいこ（8月号）

調 査 語		
	1. かなり関連している	2. 音(おん)による想像
ひとときわ		
きっと味もかくべつでしょう	おいしそうなこと(1) おいしいこと(5)味がいいこと(1)	
しごとをおえて	やめること(1)	
ところにつく		
なおも		
ようきに	大きくなってること(1)	
まつりばやしのねは		
ところをぬけだして	家を出て(1) 外へ出ること(1) でていくこと, でること(2)	
おはやし	おまつりみたいなこと(1) タイコたたくこと(1) タイコ(1)	おはようのこと(1)
かぼちゃをもちで		
おなじころ	きのうのばんのおなじ時間(1)	
ひとすじの光がもれています		
どうじに		
いちだんと	まわりにひびくこと(1)	
そのてつきのしなやかなこと		
あしはこびのかろやかなこと		
ねじりはちまき		
いっしんふらんに		
いせいのいいかけごえ		
うきうきしてくるこうけい	体の中がわいてくるような(1)	
いつものじこく		じごく(1)
そのかたわらにやぶれダイコが		
ざいりょうをみつけるのもさ いくをするのも		
どうにはほそいたけをつかい		
しぶをぬったうすいかみでは りました		
ためしにうつ		
ねいろ		
ころね		

船越：絵本の言葉と読者との相対性に関する研究

反 応 語 () は人数			
3. 言葉の意味を独立させて想像	4. 絵の中から関連なく選ぶ	5. 関連性がない	6. わからない
		おいしそうな(1) 大きくなること(1)	(38)
		たべること(1)	(32)
		ねてるばんのこと(1) しごとに行くこと(1) たべるものをみつけたあともってかえって たべること(1)	(36)
		音がきこえる(1) たんこぶ(1) ころ(1)	(37)
		おどろくこと(1) きこえること(1) タイコがきこえてきた(1)	(37)
病気のこと、胸がいたくなる(2)		タイコたたいておどること(1)	(36)
根っこ(1) 木の根(2) ねこの名前		かぼちゃの中に何かおどってんの(1)	(35)
毛がぬける(1)			(35)
			(36)
		光がでること(1) 指つつこむこと(1) できること(1)	(37)
おんなじのこと(1)			(38)
			(40)
		穴があいていること(1)	(39)
			(39)
		走るようなこと(1) 棒のこと(1)	(39)
		人間がおどっているみたいなこと(1)	(39)
うんどうかいにしている ハチマキ(1)			(39)
		ふること(1) もえるようなこと(1) たべるもののおもいだすこと(1)	(37)
	おどってるこえ(1)		(39)
			(39)
		光かがやくようなこと(1) おばけでる(1) こわいこと(1)	(36)
		困っていること(1)	(39)
		忙しいこと	(39)
			(40)
			(40)
		にぎやかなこと(1)	(39)
		聞くこと(1) むること(1)	(38)
			(40)

くずのはやまのきつね(10月)

調 査 語		
	1. かなり関連している	2. 音(おん)による想像
あわをたべる	こめがないからあわたべるの(1)	
のらへでる	はたけではたらくこと(1)	
ほうさくのまつり		
しごとをとりかえたおやじさん(11月) きむずかしく	むずかしいこと(3)	
ねんがらねんじゅう	いつものこと(3)	
がなりたててばかり	おこってばかりのこと(3) おこること(1)	
ぼくそう		

船越：絵本の言葉と読者との相対性に関する研究

反 応 語 () は人数			
3. 言葉の意味を独立させて想像	4. 絵の中から関連なく選ぶ	5. 関連性がない	6. わからない
あわを口に入れてしまう (1)おなかすくこと(1) せっけんの中へ入ること (1)せっけんをたべること (1)あわみtainなもの たべること(1)お湯のあ わをたべること(1)水の こと(1)		せんたくすること(1) せんたくをたたむこと(1) みかんたべること(1) ベルトのこと(1) はしること(1) おさかなのこと(1)	(25)
人がのはらへでること(1) 犬のおうちへいくこと(1) ドライブへいくこと(1)		うちがこわれてすきまから出てくること(1) 電車にのってどこかへでかけること(1) お花が咲いてきれいなこと(1) おばけがでること(1) いのちのこと(1) おうちからでかけること(1) 家出すること(1) でかけること(1) たべること(1) 静かなところからでること(1) 静かに外に出ること(1) 林にそっと出る こと(1) けむりのこと(1)	(19)
ほうさくというこのま つり(1) 宝石のおまつりのこと(1)		まつりをそこらでやること(1) まつりす ること(2) おまつり(4) 村でいろんな まつりすること, 村のまつり(2) ぼんお どりのこと(1) かぼちゃの中に入るおま つり(1) 大人だけ入るおまつり(1)よみ せのこと(1)人のおどったりしてるの(1) 秋のおまつりのこと(1) おまつりがでる こと(1) みちがひろいこと(1) テニスの こと(1)	(20)
	うさぎが出てきたこと(1) ころすこと(1) なんかで殺したりするこ と(1) 草かりのこと(1) はっぱのこと(1) うさぎを殺すこと(1)	いちばんわるいこと(1) わるいこと(1) おこること(1) かなしいこと(1) きもちわるいこと(1) おれて木がつぶれ ること(1)	(21)
	この草をきること(1) 鎌のこと(1) 働くこと(2) 動物をつ かまえること(1) 鬼がとんでくること(1)	あばれること(1)ずっと夜になること(1) 死んだらあかんということをたしかめるこ と(1)むずかしいこと(1)いすのこと(1) 怒ること(1) お日さまがでてお月さまが でること(1)	(22)
	あひるのこと(2) てんとう虫があるいてい ること	かんがえること(1) おかみさんを大事にして, 考えてあげてあ ったかくすること(1) 愛すること(1) こわいおじさんのこと(1) いっぱい畑を つくること(1) 落ちた時のこと(1) 下 のこと(1)はたけでおしごとすること(1) ひかれること(1)畑をしたくないこと(1)	(24)
	この草(指でさして)の こと(4) ヒヨコがごはんたべること (1) あひるのこと(1)	どろぼうのこと(1) おじさんのこと(1) おこること(1) けんかすること(1) は しりっこのこと(1) 熊やら赤ちゃんを つれてきて, お花のあるところで遊ばすこ と(1) どこかへいくこと(1) 鎌のこと(1) ゆうかた(1) ゆうかた帰 ること(1) 牛がいるところのこと(1) つくえのこと(1) おうちへ早く帰るこ と(1) ゴルフのこと(1)	(21)

調 査 語		
	1. かなり関連している	2. 音(おん)による想像
きせつ		
かりいれ	草をかること(1) 草をとってきたかえり(1) おじいさんが草をとってくること(1)	
れいによって		
もうしでに	お話すること(1) 明日から仕事すること(1)	
よくあさ		
かま	くさをかるもの(2) くさをとるもの(2) 木をたおすもの(1)	かまきりのこと(1) かばんをもつこと(1)

船越：絵本の言葉と読者との相対性に関する研究

反 応 語 () は人数			
3. 言葉の意味を独立させて想像	4. 絵の中から関連なく選ぶ	5. 関連性がない	6. わからない
	つかまえること(1) てんとう虫のこと(4)	きること(1) 走ること(1) いっぱいつくこと(1) お花のこと(1) いちばん大事なきせつのこと(1) あついこと(1) 草がはえること(1) お日さまのこと(1) りんごをガスにもやすこと(1) 白い花をとって赤ちゃんにあげようと思ったけど毒なのでほかした(1)	(25)
	怒ること(1) ごはんつく時、お茶こぼしたらあかんこと(1) おじさんがかついている棒のこと(1) こぼれたこと(1)	うちへかえること(1) 英語のこと(1) つくってる(1) かいたこと(1) 葉っぱをつくること(1) 木のこと(1) ごみ箱に入れる所(1) かぼちゃなんかを出すこと(1)	(24)
	いすがひっくりかえっていること(2) いすをこかしたこと(1) ちらかしていること(1) 水をこぼすこと(1) こぼしたことをおこりはること(1)	おこったこと(1) おこること(1) 腹を立てていること(1) むつかしい(1) ごはんがおいしかったこと(1) お日様をお部屋に入れてポカポカすること(1) おふろに入ること(1) あかんこと(1) 外へ出ること(1) 畑にもっていくもの(1) おじいさんが山に登って金の卵をほかすこと(1)	(23)
	おやじさんがかついでいる本のこと(1) お茶びんがひっくりかえったこと(1) いすとかこかしたらだめだということ(1)	いつものこと(1) 名前のこと(1) よろこぶこと(1) 迷惑をかける(1) やさしくなったこと(1) だれかきたら怒ること(1) 困ること(1) おふろつくる人(1) 何かたくこと(1) 遊ぶこと(1) 畑にいくこと(1) はいはいっていうこと(1) ごはんつくること(1)	(22)
	かまのこと(絵を指さす)	あさのこと(2) 今日の朝(1) バカのこと(1) 花畑のこと(1) おてつだいのこと(1) ビンにまげたものをこぼすこと(1) えさのこと(1) ふえのこと(1) 草をかること(1) 早くおきること(1) しごとをすること(1) ふろにはいること(1) はたらくこと(1)	(25)
ごはんをたくもの(釜を連想) おなべのこと(釜を連想)		木のこ (かたい木のこ) (1) 魚などを入れてやくもの(1) 牛をやねの上にのせること(1) やねから机とかおもちゃをおとすこと(1) まるくてお月さんのようなもの(1) 何かつくるもの(1) 何か入れるもの(3) ものを入れるもの(3) 畑をつくるもの(1) かごのこと(1) 食べること(1) たたくもの(1) あそぶこと(1) おてつだいのこと(1) ごみを入れるもの(1) たまごをわるもの(1)	(15)

トケビにかったバウイ (12月号)

調 査 語		
	1. かなり関連している	2. 音(おん)による想像
さくおとこ	仕事をする男の人(3)	
たんごのせっく		
はれぎ		
ふたひぎ		
どひょう	すもうのまるいやつ(3)	
まわしをにぎったとき	すもうのここにまいたひも(3) (お腹をさして)	
たいぼく		
わらじ	わらでつくったぞうり(1)	
ちいさいときからお金に いじめられていた		
トケビ	鬼みたいなやつ(1) わるいやつ(1) 大きくてわるいやつ(1)	
つつみがみっつ (1月号)		
きびんなこねこ		
わかいかわ		
にかいめいかに	にかいめ川をとぶということ(1)	かにのこと、かにさんがいる こと(2) にかいだちのうち(1)
かんけいないけんか	やってないということ(1) 何もしてないけんか(1) けんかじゃないこと(1) 何もなく、何もないけんか(1) かんけいないこと(4) 自分にはかんけいないこと(1)	
くどいかお	ひどいかお(1)	お日さんみてあつくなって くろくなるかお、まっくろけ のかお夏の時に黒くなるこ と(5) すみをぬられること(1)
さがすやすがさ	安い傘(3) 安いこと傘か(1) 安い傘をさがすこと(2)	

船越：絵本の言葉と読者との相対性に関する研究

反 応 語 () は人数			
3. 言葉の意味を独立させて想像	4. 絵の中から関連なく選ぶ	5. 関連性がない	6. わからない
			(37)
		すもうすること(1)	(39)
		仕事をする服(1)	(39)
			(40)
			(37)
			(37)
		穴, ほら穴(1)	(39)
		木のこ(1)	(38)
			(40)
			(37)
	おひげついているねこ(1) 珍しいねこ(1) しましましねこ(1)	かるいこねこ(2) いろんなことでけんかすること(1) わるいこねこ(2) きたないねこ(1) わかいねこ(1) 静かなねこ(1) 昔のねこ(1) かわいいねこ(2)	(26)
	とぶこ(2) 魚をとること(3) すずめのこ(1) お母さんがわらっているこ(1)	石おとしてわたること(1) にかいめそうじしているとききたらあかんこ(1)	(26)
	犬やとりのけんか(1) 犬たちがけんかしているこ(2) 犬と猫とぶつかり合うこ(1)	仲なおりすること(1) けんかはあかんこ(1) かんけいのないにけんかやるこ(1) やめるこ(2) あそぶけんか(1) 人はかんけいのない(1) みんな放っとくけんか(1) 家の中よごすけんか(1)	(18)
		こわいこ(1) けがしたこと(1) 太ったかお(1) 犬のかお(1) 大きくなったり小さくなったりするかお(1) ものすごいけがしているかお(1) 太い鼻がぼこんとなった顔(1)	(25)
		傘やのこと, 傘のこと(2) 傘かうこ(1) 傘をさがしている, 傘さがす(2) 店やがないこ(1) 傘をさすこ(1) さがすこ(1) さがしてもとどおりにすること(1) 子どもがまいごになったこ(1) ねずみとねことおっかけるこ(1)	(23)

参考文献

- | | | | |
|---------------------------|----------------------------|-----------|------|
| 1. 幼児言語の発達 | 大久保 愛 | 東 京 堂 | 1967 |
| 2. 幼児の言語発達 | 村田 孝次 | 培 風 館 | 1968 |
| 3. 幼児教育学全集 4
言説と数（第1章） | 藤永 保
村石 昭三 編著
斎藤 久敬 | 小 学 館 | 1971 |
| 4. 修辭的残像 | 外山滋比古 | み す ず 書 房 | 1968 |
| 5. エミール | J. J. Rousieau
永杉 喜輔 他訳 | 玉川大学出版部 | 1965 |